

2023年度 実践経営委員会 一覧

	実践経営委員会	委員会テーマ	コアメンバー					実践経営委員会概要
			世話人	運営メンバー	メンター	オピニオンリーダー	会計担当	
実践経営委員会 担当世話人 谷口善紀	第1	心を高める経営を伸ばす ～大きく和する～	上田昌弘 門田 恵理子 井上善博 久保篤志 小倉弘好	青木崇幸 斎藤美雪 高島義人 田中康一 八尾裕次 南場隆夫 米田岳史	小池由久	一ノ坪英二 真鍋 純 大浦昌尚 豊田匡臣	岡田 隆 角田祥子	1, 全塾生の関係性を育むことを大切に 2, ド真剣な対話を行うことを基本姿勢とし魂を磨き合う 3, 心を高める場創りのため、道場（リアル）の空気感、臨場感を重視する  また、心を高める原点として・・・ 自身について思いを馳せ、考え、知り、掴む（固有の用）ことが愛と誠と調和の世界の実現に繋がると信じ実践する委員会に挑戦します。
	第2	次世代リーダーを育む委員会	物部智人 小西繁雄 大橋裕之 原田智樹 木元伸一	大野範子 金田康介 河本 弘 馬場 健祐 松尾直樹 水口由美子 山本一彦 吉村繁慶	俣野太一	岡田泰典 真田明子 島野和弘 矢野秀和	小磯ゆかり	ここで言う次世代リーダーは2つ。1つは、我々経営者です。体験発表を通じて経営を革新し、具体的な成果を上げ、この学びが本物であることを証明していただき、本格実戦派のリーダーとして育てていただかなくてはなりません。2つ目は、それぞれの会社のリーダーで、皆さんの会社のリーダーと共に育むプログラムを開催します。共に学び、社会利益の追求により、全従業員の物心両面の幸福を追求する実践者リーダーを育みます。先般、第5委員会「感謝(他力)の風は、上空で吹く」と学ばせていただき、身震いしました。その上空まで理念を高次化させるのは、我々経営者にほかなりません。積善積徳の事業と人を育み、人類社会の進歩発展に貢献することこそが、まさに事業の隆盛と人徳の和合。この道場で我々の人徳が芽の子を洗うように、ぶつかり合って磨き合う。塾長の言われるバーバリズム、野蠻人同士、イノベーター同士がぶつかり合ってこそ磨かれるような場づくりができれば、皆さんにとってより有益な場になると考えています。事業を隆盛し、人徳を和合するため、「次世代リーダーを育む」第2委員会にします。
	第3	『原点回帰。稲盛哲学をど真剣に学ぶ』	橋本明元 重延賢治 桐元久佳 齋藤竜久 小林 万里子 南 譲人	笠間 力 迫中智信 田中規貴 出原豊久 西内 亨 畠平敬介 樺木博章	宮田博文	加藤美幸 川村和久 松永巳知子 三上正剛	中尾久美子	稲盛哲学をベースにど真剣に学び、学んだことを自社に活かして参加することで、自社の経営が純粋に良くなる委員会にしていきます。その為に、3つのことを大切にしていきます。 ①経営体験発表の原稿磨きを毎回、事前に徹底的に時間をかけてやることです。磨きこまれた原稿を元に、当日発表することで、更に発表者が覚醒体験出来るだけでなく、参加者も経営のヒントを学べることが出来ます。 ②会社訪問、事前準備、原稿磨き等は、運営メンバーだけでなく、委員会のメンバーで参加できる方は、誰でも一緒に参加できるようにしていきます。参加でなく参画型の委員会にしていきます。 ③経営が苦しい時でも参加できる委員会にします。ついつい、経営が、行き詰まると今は仕事に専念しますと、会から足が遠のく方がおられます。ただ、そんな時こそ稲盛哲学に立ち返り、ソウルメイトである仲間と関わるのが非常に大切だと思います。ソウルメイト同志の絆が非常に深く、結束力の強い会にしていきます。
	第4	『対話・共働・開新・自律・実践』	南島忠男 小川 健 磯川祐二 村松葉子	阿知波 孝明 伊東裕二 奥野智大 窪田恭介 清水麻子 瀬井新嗣 宮澤 洋 森下亮佑	吉田盛範	上林博幸 辻野裕信 長波和久 林 収一	本倉淳子	利他心の充滿した空間（共働する空間：道場）で、ソウルメイトとの対話を通じて一人でも多くの経営者が『内発的な気づき（開新）』によって、心を高め経営を伸ばし、従業員はしめすすべての人々と共に幸せな世界を創る経営体験発表の日がゴールではありません。ソウルメイトが寄り添い「自分の内なる魂と対話する」助走期間（寄り添い）を経て、発表の場が出発点です。道場で、もがいている経営者とソウルメイトの問いかけが共鳴し殻を破る（降啄同機）機会が生まれます。それまでの自分から脱却し、屏風に描かれた鶴のように我々経営者が次々と羽ばたき世界中の人と共に幸せになりましょう
	第5	宇宙の意思と調和する心の経営道。	内畑谷 剛 末松仁彦 谷口善紀 趙 海鷹 森岡昇馬	笠嶋 勲 小林徹平 土田俊介 林 恭平 半田成樹 山里 憲一郎 山中香織	畠山 兼一郎	石坂拓司 建野成恒 仲内悦治 前田英倫	伊藤玲男 田中裕之	稲盛塾長がお亡くなりになられて初めて迎える新しい年、この大事な節目の一年に私たちは塾長の跡を求めるところではなく、塾長が志された道を全員で探求し、実践したいと思います。経営体験発表を機会と捉えて、魂をぶつけ合い、発表者は勿論、参加者全員が心を磨き、我が経営に生かしあえる委員会を目指したいと思います。学びと実践を通じて交わり合いながら切磋琢磨して生涯のソウルメイトとして絆を深め合って行きましょう。楽しくド真剣に稲盛哲学を学び合い、稲盛塾長が志された道のご真ん中を全員で歩いていきたいと思います。共に学び、心を高め経営を伸ばしていきましょう！

※ 太字は、実践経営委員会 委員長・副委員長